



プリム通信

きょうかいねんかん 教会 年間テーマ～主に愛された者から主を愛する者へ「私は主を愛する」



2026 | 祈り | No.9

ショートメッセージ「恵みの雨」

毎年この梅雨の時期は、雨、また雨…の暗くじめじめとした毎日に、開口する人も多いことでしょう。しかし、庭の草木を見れば、雨に打たれた葉が輝いて生き生きとして見えます。また私たちの糧となる農作物にとっては、夏の収穫に向けてその成長を大きく促す必須条件となっています。まさに「恵みの雨」という言葉の通りです。

雨というのは、地上から蒸発した水分が空に昇り、気温の低い上空で小さな水や氷に変化して雲となり、次第にその粒が大きくなって重さに耐えきれなくなったとき地上に落ちてくる現象のことです。そして、繰り返すこの一連の水の動きを「水の循環」と呼ぶそうです。

これは、私たちクリスチャンの「祈り」にとってもよく似ています。聖書には、私たちクリスチャンがこの地上からイエス様にささげる祈りは、天に上る香（良い匂いのする煙）のようなものと記されています。

主よ。私はあなたを呼び求めます。私のところに急いでください。私があるに呼ばわるとき、私の声を聞いてください。私の祈りが、御前への香として、私の手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように。

<詩編141編1～2節>

彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっばいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。

<ヨハネの黙示録5章8節>

そしてその祈りが、天の父なる神様のもとに満ちたとき、その答えが雨のように私たちのところに届けられるのです。私たちは人生の中で困難な出来事に遭遇すると、自然と神様への祈りに導かれますが、それは決して無駄なことではないのです。熱心な祈りはやがて必ず、目に見えない神様の栄光をこの地で見るといふ、素晴らしい祝福として現われるのです。まさに私たちに恵みをもたらす「祈りの循環」です。

雨の日が大好き！という人はあまりいませんね。でもひとたび「ダムの水位が下がっている」などとニュースになれば、人々は急に雨を待ち望むようになります。ダムの水は、私たちの生活といのちに直結しているからです。だからといって、雨が局所的にたくさん降りすぎても、それは大きな災害の引き金になってしまう困りものです。季節ごとに、ちょうど良い量で降る雨こそが、恵みの雨なのです。そのコントロールは、人間の力でどうにかなるものではありません。私たちがイエス様に捧げる祈りの答えは、イエス様が時にかなって美しく、最善の結果として注いでくださる「最高の恵みの雨」です。

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

<ローマンへの手紙8章28節>

神様の恵みの雨によって潤され、生かされ、成長させられる私たちでありますように。

病床やご高齢で教会に足を運ぶことが難しい場合、お呼びいただければ、牧師がどこへでも祈りにお伺いします





イエス様がしてくださった良きことを他の人にも伝えること。

それをクリスチャンは「証」といいます。
今回は、この春にお母さんを天に見送ったMさんの証です。

私の祈りの課題は、①家族全員がイエス様を信じるこ
と、②天国で再会すること、でした。私の大好きな「母
ちゃん」が今年の4月30日に亡くなりました。98歳でし
た。去年の2月26日、私の弟が急に亡くなりました。
母ちゃんが言ったその一言。「のぶちゃん(弟)、毎晩
お祈りをしていたよ。」なんで姉ちゃんに言ってくれな
かったの？イエス様を信じていたんだね。だったらキリ
スト教の葬式をしてあげたいなあ。そしてイエス様のと
ころに行きなさい、と思いました。葬式は暖かいもので
した。それを見て、母ちゃんは洗礼を受けようと考えた
ようです。それから体がどんどん弱っていましたが、
「教会に行きたい」という願いが聞かれて、亡くなる
直前2回も教会に来ることができました。息を引き取
り、教会のみんなで葬式をしました。暖かい葬式でし
た。兄弟 姉妹に見送られて、天国に旅立ちました。
私は涙を流さないよ。家族で天国で再会しようね。

(M姉)



Mさんは、高齢のお母さんと弟さんのために毎日、イエス様を信じて救われるようにお祈りしていまし
た。毎週日曜午後の賛美集會でも、この祈禱課題を第一にみんなと分かち合って、教会全体で共に祈って
いました。そんな中、突然、不慮の事故で弟さんが亡くなったとの連絡を受けました。Mさんも教会み
なも「あれだけ祈っていたのに...」と一時大変なショックを受けました。しかし直後に、Mさんのお母
さんから、彼が眠る前に必ずイエス様に祈っていたという話を聞かされ、Mさんは迷わずキリスト教の
葬儀で弟さんを見送りました。彼の生活を一番近くで見ていたお母さんはその死をきっかけに、イエス
様をはっきりと信じる信仰告白に導かれ、葬儀後すぐに洗礼を受けられました。そして、
今年の4月、お母さんも平安のうちに静かに主イエス様のもとに召されました。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

<使徒の働き16章31節>

Mさんがしっかりと握っておられた聖書のみことばです。この約束の通り、

Mさんの祈りを聞き、最善のご計画をなして下さったイエス様に心から感謝します。ハレルヤ!

